



# 佐藤 ひさよし 後援会 News

発行：佐藤 ひさよし 後援会・大泉町民懇話会

後援会事務所：坂田1-1-1 (パナソニック構内) TEL：0276-61-9926

3月定例会では令和3年度予算調査を行いました。

令和3年度予算のポイントは町内既存企業や新たな優良企業の進出支援、水害の対策、公共交通の利便性向上調査、医療機関におけるオンライン診療導入支援や行政手続きのオンライン化、キャッシュレス決済の推進などのニューノーマル社会への対応やふるさと納税受入体制整備、認知症やその家族を支える地域づくり、防災体制・防犯対策のさらなる充実、働きながら安心して子育てできる環境整備、子供たちの学力向上などを確認しました。

令和3年度も町民税の減収が見込まれ、厳しい財政状況が想定されます。当初予算としては過去最高額の財政調整基金(町の貯金)11億6400万円を切り崩した予算編成となりました。

新型コロナウイルスの影響は、まだ続くと思われま。皆様が生きていく中での困りごとやご意見、ご要望がございましたらお気軽にご連絡をください。

早いもので1期4年の任期も残すところ1か月ほどになりました。引き続きのご支援をよろしくお願いたします。

## 3月定例会ではこんなことが決まりました

### Pick up②

■議案第16号  
「令和3年度大泉町一般会計予算について」  
令和3年度一般会計の予算総額は13億8200万円、前年度比3億300万円の増となります。  
新型コロナウイルスの影響により経済情勢が大きく変化しており町税の減収が見込まれ、昨年度に引き続き、厳しい財政状況となるのが想定されます。  
このような状況の中でも住民の皆さんが安心して生活できる環境の維持、向上をポイントにトータル6日間にわたって予算調査を行い、議案に賛成しましたが、引き続き効果的に予算執行されているのかチェックします。

3月定例会 会期：令和2年3月2日～18日

条例関係・・・7件

補正予算・・・5件

R3年度予算・・・6件

その他・・・3件

合計 21件

この中から2つを Pick up

### Pick up①

■議案第2号

「大泉町環境基本条例について」

この条例は環境基本法の趣旨や温室効果ガス排出実質ゼロを目指す取り組みの推進などを踏まえて、良好な環境の保全や創造に関する基本理念などが定められ将来にわたって町民の皆さんが健康で文化的な生活の持続を目指すとともに地球環境の保全に貢献するための条例です。

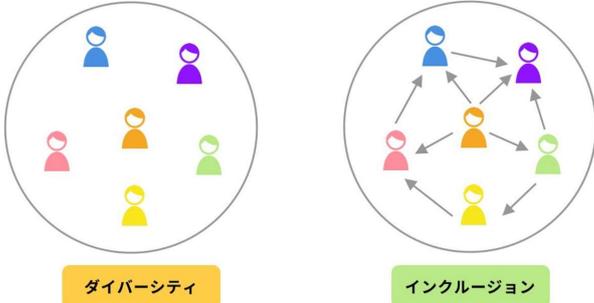
令和3年度中に良好な環境保全や創造に関する具体的な目標や施策を定め推進する「環境基本計画」を策定していきます。  
持続可能な町の構築には環境への配慮は必要不可欠です。



6日間にわたりR3年度予算の調査を行いました。

## ダイバーシティ&インクルージョンの更なる推進を！ ～性別や国籍に関わらず誰もが活躍できる街づくり～

### ダイバーシティ&インクルージョン

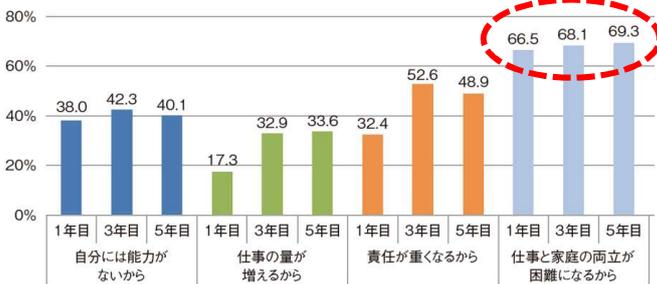


『ダイバーシティ&インクルージョンとは？』

ダイバーシティ：多様な人材が集まっている状態  
インクルージョン：人材が相互に機能している状態

イメージしやすく言うと「多様性の融合」という事になり、大泉町が目指すゴールという事になります。

### 女性が管理職を望まない理由



『女性が管理職を望まない理由』

このデータは入社1、3、5年目の女性を対象としたアンケート結果です。女性が管理職を望まない理由として大きいものは仕事と家庭の両立が困難という理由がもっとも多くなっています。



意識改革の必要性について強く訴えました。

男女共同参画は女性の社会進出や活躍を推進していくための計画です。  
令和3年度から第4次の男女共同参画推進計画がスタートしますが男女共同参画はあまり進んでいません。  
その要因としては夫は外で働き、妻は家庭を守るべきという無意識の偏見からなる性別による固定的役割分担、簡単に言うとな性は家事・育児・介護をするものだという考え方が根強く残っているため、共働き世帯が増え、女性も仕事をしているにもかかわらず、家庭生活の中の仕事(家事・育児・介護)も女性がしなくてはならない状況が無意識のうちに

男女共同参画が進まない要因は無意識の偏見からなる性別による役割分担

個人それぞれが人生の中で経験し、身につけてきたことは十人十色であって、それを急に変えるのは非常に難しいと思います。  
しかし、世界共通の目標であるSDGsのゴールの一つでもあるジェンダー平等も含め、女性の社会進出は日本全体の課題であり、スピードをあげて取り組む必要があります。

社会生活でさらに女性が活躍するには家庭生活での役割分担を見直すべき

形成されてしまっているのが現状です。  
そのため、女性が管理職を望まない理由として大きくあげられるのは「仕事と家庭の両立が難しいから」という結果になっています。

この問題はとても大きく、そして課題もたくさんあり、しかも人によって答えが違ってきます。こういった状況の中で大きなメッセージを出してもなかなか浸透しません。このような難しい課題に対してはピンポイントで強いメッセージを発信することが課題解決の近道となることから、「家庭生活における家事・育児・介護の役割分担公平条例」の制定を提案させていただきました。  
残念ながら条例の制定は難しいとの事でしたが、ダイバーシティ&インクルージョンのさらなる推進に関して強いメッセージを出し、女性の社会進出や家庭生活での公平な役割分担を推進します。

意識の変容に向けて強いメッセージの発信が課題解決の近道になる



3月7日(日)毎年恒例となっているサケの稚魚を放流してきました。  
この活動は今年で33回目を数え、地域の皆さんも大変、楽しみにしてくれています。  
昨年の12月に配布した受精卵を各家庭で育てていただき放流しましたが、子供たちも命の大事さや自然環境への配慮の大切さを学んでくれています。  
大きくなって帰って来てくれることを楽しみにしています。